

日本における子守歌

— 幼児期における日本の子守歌の考察 —

Japanese Nursery Rhymes

— An Approach to Japanese Cradle Songs in Infancy —

千葉 圭 説 岡 元 真理子*
Keisetsu CHIBA Mariko OKAMOTO

I 問 題

1. 問題の所在

(1) 筆者らは、世界の子守歌を演奏したり、また指導してきた経験から、興味深い日本の子守歌特有の資質に興味を持った。その結果国民性や歴史に加え、曲その物の出来上がった背景が、他の国とは異なった精神文化を持ち合わせていたことを、演奏者として、指導者として学ぶ機会を得たのである。それらをより一層深く教え考えることが、高い鑑賞でありまたは演奏であると考えられる。

(2) これらの日本独特の詩における精神文化とメロディーにおける調整と展開が、幼少期にどのように精神性に位置づけられているかを知り、今後の「子守歌」の在り方を考えてみたいと思ったのである。また日頃、玩具や幼児教材類などには、ほとんど日本独特の「子守歌」は使用されず、欧米の曲が多い。その問題性を同時に考えることにしたのである。

2. 研究の目的

西欧と日本の子守歌の比較をすることから、日本の子守歌の特色・文化を理解することを目的とした。また問題点を提示することにより、母と子の親子関係、奉公人と子守りをしてもらう子の関係、主従関係などが見え、様々な社会世相や歴史も見え隠れしている。また幼児期の子守歌がどのように、思い出として残っているかを明らかにすることにより、子守歌の効果を考え、育児の一場面における情操教育を深めることが重要であると考え、筆者らは研究することにしたのである。

II 方 法

1. 研究方法

筆者らの教育現場の学生と筆者らの地域生涯学習現場の成人と学童を対象に①538人にアンケートをとり、『子守歌』の記憶をたどってみることにした。また筆者らの演奏会に発表した曲や、研究発表の演奏のための練習過程の勉強法、筆者らの指導している合唱サークルでの練習過程の勉強法などの②演奏法を取り上げることにしたのである。

①のアンケートについては、教育現場の学生の数は2校で260人である。また地域生涯学習現場の成人は240人である。合わせて538人である。年齢比は小学生が28人、中高生が10人であり、18～25才までが260人であり、30～80才までが240人である。

②の演奏法については、音の高さと、大きさや発音に加え、その詩の意味を考えて、どのように演奏するべきかを、また、合唱グループの12月の練習に「赤とんぼ」を導入し、練習をする機会を得た。実際に曲づくりを行いながら、指導者の立場からと演奏者の立場から研究を進めた。筆者らのリサイタルや演奏会のテープなども参考に進めた。

3. 時期

1998年10月から12月まで行われた。

4. アンケートの結果

- (1) あなたは子供の時、子守歌を歌ってもらいましたか。
[もらった92%・もらわなかった8%]
- (2) あなたは自分の子供に子守歌を歌って上げましたか。子供のいる方だけお答えください。
[あげた65%・あげない35%]
- (3) あなたは歌ってもらった時、眠くなったと記憶がありますか。
[眠くなった47%・ならない53%]
- (4) あなたは子守歌を歌ってもらった時、歌が恐ろしかったのを記憶していますか。
[している23%・していない77%]
- (5) 子守歌を聞くといい気分になったと記憶していますか。
[している76%・していない24%]
- (6) 子守歌を聞いて、優しい気持ちになれると思いますか。
[思う68%・思わない32%]
- (7) よく聞いた子守歌を今思い出しますか。
[思い出す94%・思い出さない6%]
- (8) (7)で思い出すと答えた方は、その出だしを書いてください。
[ねーんねんしころりよおころりよ 240人]
[ねむれねむれははのむねに 120人]
[ゆりかごにゆれて 10人]
- (9) (7)の曲名がわかりますか。わかったら書いてください
[竹田の子守歌 25人] [わからない 75人]
[ねんねんころりよ 140人] [シューベルトの子守歌 100人]
[アメージンググレイス 45人] [ブラームスの子守歌 75人]
[モーツァルトの子守歌 25人] [その他 15人]
- (10) 子守歌に関連することがあれば（思い出や誰かの話）などを下線上に自由に書いてください。

返答例

[自分の子供に歌って聞かせた時，“ねんねんころりよ～”と歌うと泣く。“ゆりかごに～”と歌うと泣きやみ眠る 78 人]

[子供にはいつも歌っている歌を歌うと寝る 31 人]

[自分なりに、その時の気分で歌詞を考えて歌っていた 18 人]

[眠れない時、母の背中におんぶされたのを覚えている 13 人]

[ハンモックに入っていて母か姉が揺らしてくれた 3 人]

[歌より、ふとんの上からポンポンたたくのが気持ち良かった覚えがある 18 人]

[おんぶされている時（またはだっここの時）ポンポンとたたかれたのが心地良かった 30 人]

[子守歌はあまり好きじゃなかった。こわい感じがした 4 人]

[おばあちゃんかお母さんが、私をだっこしてくれて寝かしつけてくれた。とても心地良かった 12 人]

[いとこの赤ちゃんにお母さんが歌っている時に、一緒にその歌を覚えてもらった 4 人]

[子守歌は嫌いで、童謡を歌ってもらった 4 人]

[坊やよい子だねんねしな…の日本昔話の曲と話を聞いて寝た 5 人]

[ぼうやの子守りはどこへいったでんでんたいこ…を聞いて悲しくて泣いた。いつも歌ってくれるのでいつも泣いた。そして寝た 6 人]

[祖母に歌ってもらった 7 人]

[ねんねん…と歌いだすとすぐ寝た 2 人]

[小学 6 年の時、戦争の劇の時、皆で五木の子守歌を歌った 7 人]

[歌ってもらってない 37 人]

その他 25 人

無回答 234 人

結果をみると、日本の子守歌より外国の子守歌が好まれる傾向がわかる。また、日本の子守歌は暗いイメージがあり、泣き出した子もいたという。なぜ暗いのか。また、日本古謡の『ねんねんころりよ～』の曲の他はあまり有名ではなかったことが解った。日本全国の回答ではなく、限られた地域と、年齢においても不特定数に広がりを持っているので、今後は全国各地にそれぞれ定数で行われ、また性別・年齢を特定して行われると興味深い結果が得られると確信している。

5. 西洋と日本の子守歌の比較

(1) 西洋の『子守歌』の特徴

寝かしつけるための静かな曲である。母の気持ちを表し、腕やゆりかごを揺らしながら、宗教的な曲想が多い。また、歌詞のない楽器のみの「子守歌」も多く「眠らせ歌」ともいわれている。「lullaby」という歌詞を繰り返す中世のキャロル(MB, xxxvi), バードの[眠れ、私の可愛い赤ん坊 Lullaby, my sweet little baby] (1588), バッハ, シューベルト, ブラームス, ネ

ヴォルフ、コルネーリウス、シューマンなどカンタータからピアノ曲まで多種多様の形式が見られる。母と聖母マリアを重ねる作品や子は神の子であるという精神文化上の宗教心などが、みごとに人文主義を生み出していることが「子守歌」一つから伺えるのである。中世の戦いの最中であろうが、教会の外の民衆の中にも、もちろん教会の中にも「子守歌」は確固たる存在感を示しているのである。

①ショパンの「berceuse (仏) ベルスース・子守歌」の例，作品番号 op 57 (1845)

Berceuse
子守歌

F. Chopin, Op. 57

Andante

p *dolce* *ma. simile*

398 - 1

398 - 2

398 - 3

398 - 4

Detailed description: The image displays a musical score for Chopin's 'Berceuse' (Op. 57). It is presented in four systems, each with a piano (left) and right-hand part. The tempo is marked 'Andante'. The score includes dynamic markings such as 'p' (piano), 'dolce', and 'ma. simile'. Circled numbers 1 through 6 are placed above specific musical phrases in the right-hand part across the systems. The piano part features a steady, rhythmic accompaniment. The right-hand part contains the melodic line, which is characterized by its gentle, lullaby-like quality.

演奏上の注意点（上記楽譜上の番号を参考）

- ①右手の指の広がり9度を楽に押さえなければならない。
- ②右手はレガート奏法を崩さず持続させなければならない。
- ③左手も運指法において、軸指の指番号5から12度上の4に移行する際のスラーをペダルにたよる前に充分訓練しなければならない。
- ④この16分3連符のレガートは風が、赤ちゃんの肌に触るように、そっとしかも確実に流れなければならない。左手のオスティナートと別に旋律を自然に刻むように心がけたい。
- ⑤赤ちゃんが夢をみているような、お話に相打ちするように、しっかりした音程の把握と音を握むように演奏しなければならない。
- ⑥このピアノニッシモはまだまだ眠りが続くように、話しかけるように、一つ一つ丁寧に弾いて、今までのメロディーが、記憶の中に残るように、余韻を求めて終わることが望ましい。
- ⑦カデンツェはなだらかに演奏し、けっして誇張せずに鼻でハミングするように。

曲の特徴

歌詞をもたない純粋なピアノ曲である。しかし、「berceuse」（子守歌）の題がつき、そのために書かれたものである。この曲の特徴は実際には変奏曲であり、右手の旋律が次々と変奏され、左手のオスティナート・バスは上行・下行するアルペジオからなっている。これは『ゆりかご』の揺れを表しているのである。興味深いことと曲の高度な作曲テクニックは他に類を見ないほど洗練されている作品である。まず、左手のアルペジオの視覚的作風は揺れる流れを感じさせ、その箇所箇所の装飾音は歌われる子守歌にも劣らないメロディー性を表現している。純粋な器楽曲から、器楽形式の子守歌として成立させているのである。非常に音楽性に富んでいる作品である。ここまで、なぜ子守歌が洗練できたのか、またその必要があったのか。それ

は単に民族音楽にとどまらず、芸術音楽として完結する精神性があったのである。音楽が生活と精神を連結し、そこには神への道を見出だしていたのではないだろうか。

演奏法は、しっかりとフレーズごとブレスィングをすることが重要である。赤子の呼吸に合わせ、またはゆりかごの速さに合わせて演奏することがだいじである。左手の根音をテヌート気味にリズムを誇張し、右手のメロディーは軽く深い音を要求される。鍵盤を掴むように、安定感を出して演奏するとよい。またディナーミクは穏やかに川の流れのように進行して行くべきである。特に左手のレガート奏法の訓練が必要とされる。

②次にブラームスの「子守歌」を掲げる。

歌詞は3人の詩で2節作られている。ここで興味深いのは、どちらの詩人も童話作家で子供のために詩を書いている人であることである。子供からの視線の高さが、この曲が世界で一番有名な位置をいまだに譲らないわけでもあると考えられる。1節はアルニム (Achim von Arnim 1781~1831) とブレンターノ (Clemens Brentano 1778~1842) が「こどもの不思議な角笛」からの1節である。そして2節目はゲオルグ・シュラー (Georg Scherer) の「絵入りドイツの子供読本」からの童謡を改作して作られた。曲風は子供を慰め愛撫し安らかな気分させる効果を生み出している。それは柔らかい感じの切分音に現れている。この曲を作曲した状況は、ブラームスがハンブルクで女声合唱を指導していた時、この合唱団の一員のベルタ・ファーバー (合唱団の中でも秀でた歌の旨い人であった) が次男を出産する際に贈った曲である。ファーバーの好んだワルツ (ウィーン風のバウマン Alexander Baumann) を思い出しながら作曲した。ピアノ伴奏譜を右手におき、その上に子守歌のメロディーをおいたという、穏やかにゆりかごを動かしながら、眠りにつかせるような歌声を載せてある。

詩の意味は次のようなものである。

おやすみよ、
バラの屋根に石竹の飾りの中に、
あしたの朝、
神様が起こしてくださるまで。
おやすみよ、天の使いに守られて。
お使いたちは夢の中で
幼いキリストの木をみせてくださる。
楽しくやすんで、天国の夢をみなさい。

(門馬直美訳)

原詩は次のようなものである。

1. Guten Abend, gut' Nacht,
mit Rosen bedacht,
mit Nag'lein besteckt,
Schlupf' untor die Deck':

Wiegenlied
ブラームスの子守歌

♩ (詞)
J. Brahms
堀内敬三 訳詞

Zart bewegt (Dolce, con moto)

Morgen früh, wenn Gott will,
wirst du wieder geweckt,
morgen früh, wenn Gott will,
wirst du wieder geweckt.

2. Guten Abend, gut' Nacht,
von Englein bewacht,
die zeigen im Traum
dir Christkindleins Baum:

Schlaf'nun selig und süß,
schau'im Traum 'sPara dies,
Schlaf'nun selig und süß,
schau'im Traum 'sPara dies,

演奏上の注意点（上記の楽譜の番号を参考）

- ①歌い出しは、伴奏のゆりかごのリズムのようなところから、自然にピアノで出るところを注意する。
- ②この休符はしっかり次の言葉につなげる。
- ③この休符はしっかり休み、フォルテまで待ちきれないないように、胸が愛情で溢れる思いを歌う。
- ④Mo-のMはンムモーとムーの次にモーを歌いだすことが、次のフォルテにつながる。
- ⑤この洋楽の[装飾音]はビーイデルwie-derのieのところについているが、ビーの時から、鼻腔に貯めた息で音程を崩さず支えて発声する。

演奏会・発表会の時の注意

- ①会場の音響上の問題に合わせ、強弱を加減するのであるが、この曲はPから出るので非常にむづかしい。口腔内の言葉の形（発語）をつくってから発声することが、弱く発声するコツであることが、何度も演奏会で歌った経験から学んだ。
- ②Nachtのcht（ハトゥ）であるが、はっきり発音すべきである。
- ③ドイツ語のuには気を付ける。日本語より深いウである。音楽会会場では、ここの言葉で、深く厚く発声しておかないと、薄いドイツ語＝日本語的ドイツ語と聞こえてしまう。
- ④聴衆がザワザワしている時は、この曲のように、Pではじまる曲は静かになるまで待つことが望ましい。待つのは長く感じるが、計ってみるとたいした時間ではないのである。

(2) 日本の『子守歌』の特徴

日本においての代表的な子守歌は『五木の子守歌』『中国地方の子守歌』などである。

日本の子守歌は子供の視線において作曲されたのではなく、子守りという労働から自然に生活のなかから生まれたと言える。したがって作風や作曲法などはなく、口伝え、伝承から今まで伝えられたものが多い。子守歌には、「寝かせ唄」「遊ばせ唄」「子守り娘の唄」の種類があ

るが、世界の子守歌の中にみられないのは「子守り娘の唄」である。子守りが少女の仕事であった時代がある。守り子という労働の歌であり、[だ賃をもらう]または「おやつをもらう」という、労働の始まりでもあった。また、「口減らし」のために地主や商家に住込み、「子守奉公」という言葉も出現した。

また1772年の『山家鳥虫歌』(さんかちょうしゅうか)には[勧めしょうとも子守りはいやよ、お主にゃ叱られ子にやせがまれて、間に無き名を立てられる]とある。これははっきり子守りの奉公の姿がわかる。「子守りの勤めはいやなものだ。主人には叱られ、子にはいじめられ、いわれのない噂を立てられる」(高知)という嘆き節といわれるメロディーである。これは明治以降の、数も知れぬネエヤが口ずさんだ守り子歌へと続いて行くのである。そして土佐の子守歌に影響していくのである。18世期後半には、子守り専門の労働種が成立していくのである。子守り子の嘆き節の歌から七七七五調の言葉重ねの歌、脅し節の歌へ移行していく。子守り子の嘆き節は『山家鳥虫歌』として先に掲げている。七七七五調のものでは、1713(正徳3)年の浄瑠璃「天神記」には次のような歌詞がある。

「寝んねこ寝んねこせ、寝んねこ寝んねこ寝んねこせ。おとせでおよれ、犬の子犬の子。

目だに覚めたら、背にきつと背負せて、ののへ参らふ参らふ、お人形に花折り着せて、打ち着せて、着せて雉の雌鳥ほろりと落して、しよのしよのおいとしよの」

ノノさま(神様)の参りの土産はでんでん太鼓に笙の笛…この詩は『江戸の子守歌』にも登場する全国に流行する子守歌である。子守りの嘆きの歌は次のようなものがある。

- ①ねんねした子に、赤いべべ着せて、ねんねせぬ子に、縞のべべ。
- ②ねんねせぬ子は、おかめにかます、おかめ恐ろし、チャトねんね。
- ③ねんねねんねと、せなたたかれて、何のねられように、たたかれて。
- ④守りまもりやと、沢山そうに、守りもひと役、おとな役。
- ⑤わしはいにたい、あの山越えて、親に会いたい、ふた親に。
- ⑥守りはにくいとて、破れ傘さしや、可愛いわが子に、雨かかる。
- ⑦選びなされよ、我が子の守りを、守りの仕業を子が習う。

上記の解説

- ①(寝る子と寝ない子の比較)
- ②③(眠らない子への脅しや苛立ち)
- ④(守りを侮る者らに対する反撃)
- ⑤(別れて暮らす親への思慕)
- ⑥⑦(主人の冷遇にむけてのしっぺ返しと抵抗)

日本の子守歌のいつも「わらべうた」研究の中に隠れて、そのものの文学性・世相性ましてや音楽性などは研究は浅いところに置かれていたのである。その中であって、北原白秋が昭和22年に『日本伝承童謡集成』を発売し、日本全国から3,500編あまりを採集・収録したことは、たいへんな偉業である。さて、その中から代表的で楽譜におこしてあるもの2曲を掲げ、日本

の子守歌のありかたを考えてみることにする。1曲目は民謡であり、恨み節である曲である。地頭は「よか衆」であり、貧しい小作人はナゴ（名子）と言われ、乞食同然の「勸人」と言われている暮らしぶりが伺える2拍子の子守歌である。もう1曲は山田耕筰の近代に作曲されたものである。子守りのネエヤの視線と背負われた赤子の視線が交差し、ネエヤの言葉で自分のために歌われている歌である。

[1] 五木の子守歌(明治30年代後半, 黄昏がしだいに西の空が赤々と染めていくころ, 赤ん坊を背負った守り子たちが, 遊び疲れ腹をすかし10人20人と群れをなして, 田んぼのあぜ道で, 誰ともなく守り子の一人が, おどんが死んだなら, 道端に埋けろと歌い始める。すかさず, それに呼応する声が続く, 花は何の花つんつん椿……。五木村で出現した歌というより, 近郊の熊本県地方のうたであり, 守り子の歌を集め一つの歌としたものである。ナゴ百姓の娘たちが守り子として, ダンナの家の子守り奉公している時に, 口伝承により歌われ, いつしか, いろいろな歌詞が導入されていったのである。ここでは, 昭和10(1935)年頃に, 熊本放送局から全国に流された出し, 昭和26(1951)年, 熊本局の番組「お休みの前に」の音楽として使われ, 大反響となったのである。古関裕而の編曲により, ハモンドオルガンの伴奏で演奏されたのである。やがて日本中に広まったのである。戦後の日本が, 郷愁と貧しさの中に見出だした励みのメロディーだったのかも知れないと思われる。

詩は次のようなものである。

1. おどま 盆ぎり盆ぎり
盆からさきや おらんど
盆がはよ来りゃ はよもどる
2. おどま勸人勸人
あん人たちやよか衆(し)
よかしゃよか帯よか着物
3. おどんがうっ死(ち)んだば
道ばちゃ いけろ
通る人ごち花あぎゅう
4. 花は 何の花
つんつん椿
水は天から もらい水

五木の子守歌

熊本県民謡
有馬礼子 編曲

哀調をこめて ♩=76

The musical score is written for piano and voice. It features a key signature of one flat (B-flat) and a 2/4 time signature. The tempo is marked as '哀調をこめて ♩=76'. The score is divided into four systems, each corresponding to a different lyric version. The first system includes the lyrics for version 1. The second system includes the lyrics for version 2. The third system includes the lyrics for version 3. The fourth system includes the lyrics for version 4. The piano accompaniment consists of a simple harmonic progression in the right hand and a steady bass line in the left hand.

ここに掲げる曲は有馬礼子の編曲である。この曲はもともと単旋律で、伴奏などはない時代である。なるべくもとの旋律の動きを重視し作曲したのである。2拍子と3拍子が混ぜあわせて標記してあるが、口伝承の民謡であるためである。またメロディは小さい山から大きな山を見出だしている。たった2つの大小の山で成り立っている曲である。しかし、洋楽と比べても劣らぬ旋律である。このようなメロディは、作曲しようとしても出てくる旋律ではなく、やはり生活の中からにじみ出てきた言葉と密着した作風であるといえる。

演奏法の注意点（上記楽譜上の番号を参考）

- ① 8分音符の中に「ぼん…」と入るが「ぼーん…」と音符の長さいっぱい延ばし、鼻音を美しく笑筋と呼ばれる筋肉を引き上げて発声しなければならない。この曲の歌詞は非常に多くの「ン」「ムン」が出てくるので、日本語の鼻音の美しさを誇張できるのである。
- ② BからGへの移動には「ぼんがはよくりゃ」までのアーティキレーションを考えて、体の呼吸筋をコントロールしてフレージングを作るところである。
- ③ 民謡では泣きの入るところである。クラシックでも歌には、ソットボーチェやディミニエントなど、泣く時の声がある。呼気量は変わらずに、口内を広げて弱く発声をする。

演奏会での注意点

- ① 母音と鼻音の上に子音を載せるように歌うことが大切である。音響の良い会場では、子音は細く、母音は低めに鼻音は開いた声に聞こえるので、言葉から言葉のテヌートをしっかり練習するべきである。うまくできないと何を言っているかわからない状態となる。
- ② 方言の曲であるので、メロディをつける前に、この地方の言葉を練習すると良い。聴衆への説得力が違ってくる。

[2] 『赤とんぼ』の曲について（昭和2年作曲，昭和22年文部省教科書「5年生の音楽」に導入。この時は3節をぬき，4節を3節にいった）

この曲は子守りのネエヤの背に負われながら、風景としゃがんで摘んでくれた桑の実、そして自分たちのまわりを飛び交う茜色のトンボの群れを歌っている。そして子守り子のネエヤが背負った子供の心と視線からの風景でもある。夕暮れの田園の中に、子守り子の背負っている子供への深い愛情を感じさせる。ネエヤは自分自身の将来の姿であり、希望でもある。里のことも今はたいへん懐かしいが自分が15才ぐらいになると、思い出も便りといっしょに絶えてしまうだろう。その時は故郷への思いも薄らぎ、心も楽になると思い頑張ろうと思っていることが伺える。子守歌の中の「子守り子の唄」に属する。

詩は次のようなものである。

1. 夕焼け小焼けの 赤とんぼ
負われて見たのは いつの日か
2. 山の畑の 桑の実を
小籠に摘んだはまぼろしか
3. 十五でねえやは 嫁に行き

お里のたよりも 絶えはてた

4. 夕焼け小焼けの 赤とんぼ

とまっているよ 竿の先

演奏上の注意点（上記楽譜上の番号を参考）

あか とんぼ
赤 とんぼ

三木 露風 作詞
山田 耕 作 曲

① ゆるくおだやかに ♩=60

pl dolce *mf* *f*

①伴奏の出だしであるが、自然にハミングが遠くから聞こえてくる気配のように、入ってくるように演奏したい。

②この小節が前のフェルマータの続きを感じて、遅くすることがあるが、アテンポになるようにリズムをもどすことがだいじである。

③ *p* *mf* *mf* ④

1. ゆうや	け	こ	や	け	の	あ	か	と	ん	ぼ
2. やーま	の	は	た	け	の	あ	く	わ	の	み
3. じゆう	で	ね	え	や	は	よ	め	に	と	ゆ
4. ゆうや	で	け	こ	や	け	の	あ	か	と	ん

③「ゆう…」で、BからEsに行く時Esが上がりきらないことが多いので、ユ～ウのユの母音のウが次のウにつながるように歌うことがだいじである。

④(あ)から(か)と発語する時、音程が6度にもなるので、(あ)と(か)の発声が異なる発声法となる

ので注意したいものである。日本語のニュアンスからも、この部分はクレームのつくところである。日本語では「あかとんぼ」であるのに、この歌では「あかとんぼ」となるのである。それを「あかとんぼ」に歌わなければならないのである。

⑤ *p* *mf* *p* *poco rit.*

お	わ	れ	て	み	た	の	は	い	つ	の	ひ	か
こ	か	ご	に	つ	ん	だ	は	ま	ぼ	ろ	し	か
お	さ	と	の	た	い	よ	り	も	た	え	は	て
と	ま	っ	て	い	る	よ	さ	お	の	さ	き	

⑤ Bの音をテヌート気味に歌うと、そのあとのスラーもうまくゆく。

演奏会での注意点

①最後のリットが遅く重くならないように気を付ける。

②伴奏の低音部が、フレーズをしっかりと歌ってほしいところである。聴衆が情景を思い浮かべるキャンパス役目であるからである。

合唱サークルの練習

①8分音符が切れるので切れなくて言葉と音を歌い込むようにすると良い。

②よく知られた曲で、それぞれの団員の思い入れがあるので、そのノスタルジアを壊さないで声を出させることが難しい点である。

③有名な曲ほど、自己流に歌っているのだから、合唱では、他の人とハーモニーを作るので、それらの自己流を取り除くことをする。

III 演奏上の考察

日本の2曲の音楽的演奏法の共通点は、声楽的演奏法により演奏されるより、クラシック操法のタブーと言われている「裏声」「地声」「縮緬震い」といわれる種類の発声法を用いてまでも、歌うことがこの歌の用途からは必要性があると考えられる。それでは、日本の子守歌はどのように演奏することが望ましいのであろうか。また日本語特有の母音の処理であるが、母音の最後の部分の重ねるように、次の母音を発すると美しく歌えるのである。

また哀愁を歌う時のビブラート（振動）を細かくする発声法が効果を大きくすると言える。拍子について、西欧では3拍子系統が全てであるが、日本の子守歌は4拍子が多い。各地の子守歌の比較を掲げる。

曲名	地域(時代)	調整	拍子	謡だし	節
子守歌	日本古謡(陰)	c	4/4	ねんねんころりよ	眠
	日本古謡(陽)	C	4/4	ねんねんころりよ	眠
赤い鳥青い山	帯広	c	4/4	ねんねのねたまに	眠
南部の子守歌	岩手	F	2/4	ヤットコやまだの	眠
秋田の子守歌	秋田	d	4/4	ねんねこころろこ	脅
仙台の子守歌	宮城	d	4/4	ねんねろねんねろ	脅
江戸の子守歌	東京	c i s	4/4	ねんねんねっこじまの	遊
越後の子守歌	新潟	h	4/4	おやまでこいしい	子
岡崎の子守歌	愛知	g	4/4	ねんねんよおころりよ	眠
天満の子守歌	大阪	F	4/4	ねんねこいち	遊
京都の子守歌	京都	e s	2/4	みたかみてきたか	脅
泣くな泣くな泣くなよ	奈良	d	2/4	なくななくななくなよ	眠
坊やお守りは	徳島	h	4/4	ぼうやお守りは	眠
中国地方の子守歌	広島	G	2/4	ねんねこしゃしゃり	脅
島原の子守歌	長崎	e	2/4	おどみやしまばらの	眠
博多の子守歌	福岡	e	2/4	はかたやなぎまち	子
五木の子守歌	熊本	b	2/4	おどまぼんぎり	子
永田の子守歌	鹿児島	a	2/4	ハネンネンヨ	遊
谷茶前の子守歌	沖縄	C	2/4	たんちゃめぬ	遊

節…寝かせ歌→眠

脅かし歌→脅

遊ばせ歌→遊

子守り娘の歌→子

上記のように日本の子守歌は4拍子の身体を自然に動かし安いリズムである。そこには優雅さやしなやかさはいり得ない。仕事の拍子といえるのである。ダンスのような要素はなく、ひたすら単純に動かすリズムである。子守りのように、揺らすという動きはこの拍子の中では無理である。リズムの揺らしの遊びが得づらいからである。ハンモックやゆりかごの1・2・3・2・2・3というテンポにあわせられないといえる。4拍子は赤ちゃんに合わせて子守歌を歌

うのではなく、子守り子本人のための歌であったといえる。

IV ま と め

「歌」は洋楽であれ邦楽であれ、その時代の世相をみごとに写し出すものである。ここで研究した「日本の子守歌」については、子供（少女）の労働の一職種から自然に出てきた『労働歌』といえる。日本各地に3,500編の子守歌があると（北原白秋昭和22年収集）というが、それだけの少女たちの子供時代の思い出も、埋もれていると理解できるのである。ほとんどの曲が4拍子で作曲されているが、アンケートの回答にもあったように、ポンポンと背中をたたかれて…心地か良く眠った……ということからも解るが、ゆりかごやハンモックや揺りいすを使用するのではなく、子守り娘が自分の背中の子を自分の手で、たたき眠らせたのである。そしてほとんどの娘は10才前後である。時代の背景と共に考えると、悲しみがこもった歌声ではなかっただろうか。10才ころの声帯はまだ未熟で、か細い声で時には変声期を持つ女の子もいるのでしわがれ気味のかん高い声で歌ったと想像できる。また、これらの子守歌が現在、世の中に埋もれている実態がある。アンケートの回答にもあったが、なんとなく淋しいとこわい恐ろしい歌であるので、あまり歌われなくなったと考えられる。また、アメージンググレイスやイエスタディなども子守歌の代用になってきた時代性もあると考えられるのである。現代は「ねむの木の子守歌（美智子皇后陛下作詞）」はじめ、多くの曲が作曲されている。一般にはまだ歌われてはいないが、純粹に「寝かせ歌」として登場してくている。モーツアルトやブラームスのように3拍子ではなく、あいかわらず4拍子でできている。今後、幼少期から母親自らの生の声で、子供に語りかけられる明るい「子守歌」の出現により、母性愛をさらに期待できると考えるのである。心の歌は子守歌から始まり、親からの教育の始まりも子守歌の聞く幼少期から始まると考えられる。子守歌を育児に多いに生かすべきである。

参 考 文 献

- 石高 琴風著 日本民謡大全集 共栄書房（1984年2月25日）
 足羽 章 編 日本童謡唱歌集 ドレミ楽譜出版社（1984年1月20日）
 中目 徹 編 日本の子守歌 東亜音楽社（1995年1月25日）
 赤坂 憲雄著 子守歌の誕生 講談社（1994年2月20日）
 日本昔ばなし集 文芸春秋デラックス（1974年）
 小泉文夫 阿久 悠 山本直純 井上ひさし 佐藤誠三郎共著 歌は世につれ 講談社（1982年）

曲 掲 載

- 標準音楽辞典 音楽之友社（1965年）
 世界名歌250曲集 東京楽譜出版社
 シュパン op.57 子守歌 ヤマハピアノピース ヤマハ出版